

京都市多文化施策懇話会 ニュースレター No.5

編集／発行：京都市多文化施策懇話会事務局（京都市総合企画局国際化推進室）
2012（平成24）年1月31日発行

2011（平成23）年度第2回会議を開催しました

＜日時＞ 2011（平成23）年9月27日（火）午後2時から4時まで
＜場所＞ 京都市役所会議室
＜議題＞ 支えあうコミュニティ



第2回会議では、「中国籍市民」や、「中国にルーツのある日本国籍の市民」について、報告と議論とを行いました。「華僑」といわれる日本に居住されている中国国籍の方や、「華人」といわれる中国にルーツをもつ日本国籍の方、また「中国帰国者」や中国から来日後に日本国籍を取得した方など、「中国」と一口に言って

もさまざまな背景やルーツをもった方がおられます。（※下記「『華僑』と『華人』について」「中国帰国者について」参照）

報告1 — 京都市内で生活する「中国籍市民」、「中国にルーツのある日本国籍市民」について —
「中国籍市民」や「中国ルーツの日本国籍市民」の生活、その多様性と地域とのつながりについて

報告2 — 中国帰国者支援活動について —
日本語教室、医療通訳などの中国帰国者支援の取組について

※「華僑」と「華人」について

華僑：外国に居住している、あるいは外国に長期生活を送る中国国籍の人。
華人：移住先の国籍を取得した中国系住民の方で、「アメリカ籍華人」「日本籍華人」など。またこうした人々の子孫は「華裔」と呼ばれています。

※中国帰国者について

第2次世界大戦が終結した後、多くの日本人が帰国できず、中国人に孤児として引き取られたり、現地で結婚するなどして、やむなく中国に残ることになりました。1972（昭和47）年の日中国交正常化以後、こうした中国残留邦人の方々が数多く日本へ帰国されました。長年中国の言葉・文化のなかで生活してこられたため、これら「中国帰国者」の方々が日本に定着し、自立するには言葉、生活習慣、就労などの面でさまざまな障害があります。現在、法律に基づき各自治体が中国残留邦人等に対する支援策を実施しています。

きょうと し ない せいかつ ちゅうごくせきし じん 京都市内で生活する「中国籍市民」、 ちゅうごく に ほんこくせきし じん 「中国にルーツのある日本国籍の市民」について

きょうと し ない まんにんちか ちゅうごくせきし じん かた す
京都市内には1万人近い「中国籍市民」の方が住
んでおられます。また、中国籍ではありませんが「中国
にルーツのある日本国籍の市民」もたくさんおられ、
これらの方々を大別すると主に次のようになります。



○1970年代後半の中国の改革・開放政策以前から日
本で暮らしている、いわゆる「老華僑」。(今は日本
で生まれ育った二世、三世が中心で、すでに日本国籍を取得した人(日本籍華人)もおられ
ます。)

○中国の改革・開放政策以後に中国から来日したニューカマー (いわゆる「新華僑」)で、主
に中国語や中国文化の中で育った人や中国人留学生など。

○「中国帰国者」の方は国籍は日本ですが、多くが中国語や中国文化の中で育った方々です。
こうした「中国籍市民」, 「中国にルーツをもつ日本国籍市民」の方々には中国本土出身の方
もおられれば台湾出身の方もおられ、いわゆる「国際結婚」のために日本へ来られている方も
多くおられるなど、その文化的背景や日本で生活するに至った理由はさまざまです。

たんとういん いけん — 担当委員の意見 —

・1970年代以前から日本で暮らす「老華僑」は日本全体で見ると中国福建省出身者の割合が多
く、自営業者が多い。日本社会に溶け込むことが大事だ、と考える人もいれば中国人とし
てのアイデンティティを大切にしたい、と考える人もいる。

・日本で生まれ育った「老華僑」と、1980年代以降に来日した「新華僑」や「留学生」とでは言葉や
文化が異なり、同じ中国籍市民であっても両者間の交流は薄い。こうした多様な国籍・文
化をもつ人たちが互いに支え合うことが必要である。

・「中国籍市民」, 「中国にルーツをもつ日本国籍市民」の方々の背景は多種多様であり、こ
ういったさまざまな文化的背景をもつ人たちが互いに支え合うことや、地域と連携すること
が必要である。

きょうと し こくさいこうりゅうかい かん に ほん ご きょうりつ 京都市国際交流会館 (kokoka) の日本語教室

に ほん ご こうざ 「やさしい日本語講座」

日本語を母語としない方に一日も早く京都での生活に馴染んでもらうための日本語講座で
す。レベルによって2つのクラスがあり、挨拶や買い物などの日常会話を学んだ後、文章を
書く練習も行います。

週に1回の3ヶ月コース(年3回)と、夏期1ヶ月半のサマーコース(ともに全12回)とを設
けています。事前に申し込みが必要です。(授業料は1コース6,000円)

に ほん ご ボランティアによる日本語クラス

ボランティアのチューターによる、日常会話や文法の学習を中心とする日本語クラスです。
日本語学習だけでなく、外国籍等の利用者の方の交流の場となることを目的としています。
毎週火曜日から日曜日に実施しています。(時間についてはお問い合わせください。)事前申込
みは不要です。(参加費は1回50円)

お問い合わせ先：京都市国際交流協会 TEL075-752-3511 <http://www.kcif.or.jp/>

中国帰国者支援活動について

◆中国帰国者支援の取組

京都市伏見区の小栗栖地域には、約70名の中国帰国者(一世)の方が暮らしています。子供や孫(二世、三世の方)も含めると、その数は約600名になります。

中国帰国者の方々は、国籍は日本でも、中国の言葉や文化のなかで育ったため、日本で生活する上ではさまざまな困難があります。特に高齢になってから日本に戻ってきた人にとって、日本で生活する上でもっとも大きな障害となるのは「言葉や習慣の壁」です。

小栗栖地域では、ボランティアの方々により、中国帰国者を対象とした日本語教室の取組が10年以上にわたって行われてきました。また、日本語教室以外にも、医療通訳や福祉・教育・住宅入居などに関する相談や手続のお手伝いなど、さまざまな帰国者支援活動が行われています。

京都市では、中国帰国者等の方々への支援策として、日本語教室や文化教室の開催を支援するとともに、医療機関を受診する際の通訳等派遣事業や、福祉事務所への支援・相談員の配置などの事業を実施しています。

一担当委員の意見一

- 中国帰国者は日本国籍だが、言葉も文化も中国である。中国では「日本人」と言われ、永住帰国した日本では当初周囲から「中国人」であるかのように受け止められた。
- 帰国者一世は非常に高齢化が進んでいる。子供や孫の世代(二世、三世)が一世を支えていく必要がある。

京都小栗栖日本語教室について

京都小栗栖日本語教室は、伏見区小栗栖地域で1998(平成10)年から始まりました。中国帰国者の方々に日本語を学んでもらうための取組です。帰国者二世、三世が日本社会で仕事を得て、生活していくためには日本語能力が不可欠です。また、高齢化が進む帰国者一世にとって、日本語教室は貴重な社交



の場となっています。ボランティアの方々による日本語教室の取組が広がり、さらに医療通訳など、さまざまな中国帰国者への支援活動へと広がっていきました。

現在、日本語教室は地域の集会所や学校の教室などを利用して授業を行っていますが、こうした場所の確保のために地域の協力は不可欠です。地域住民のボランティア参加が少ないという課題もあり、今後、地域との連携を一層進めていく取組が求められています。また、運営する事務局スタッフが高齢化しているなか、現在、帰国者二世、三世を中心に後継者となるスタッフを育てる取組を進めています。

ぼうさい こん わ かい ちゅうかんでいげん
防災についての懇話会からの中間提言
さいがいじ がいこくせきし みんどう し えんさく
(「災害時における外国籍市民等への支援策について」)

ひがしに ほんだいにしんさい う ぼうさい ちゅうかんでいげん きょうと し た ぶん か し さくこん わ かい ていしゅつ
東日本大震災を受けて、防災についての中間提言が京都市多文化施策懇話会から提出され
ました。震災により明らかになった課題や教訓を確認し、外国籍市民等へ向けた防災の取組
の点検・強化や、外国籍市民等と協働して具体的な防災行動につなげることが提言されました。

さいきん きょうと し とりくみ ぼうさい
最近の京都市の取組(防災)

きょうと し ぼうさいたいさくそうてんけん
—京都市の防災対策総点検—

ひがしに ほんだいにしんさい う きょうと し せつち きょうと し ぼうさいたいさくそうてんけん いんかい きょうと し ぼう
東日本大震災を受けて京都市が設置した「京都市防災対策総点検委員会」から、京都市の防
災対策について報告書が提出されました。報告書では、外国籍市民等へ向けた取組について、
多言語での災害関係情報の発信や、京都市が京都市国際交流協会やNPO・ボランティア団
体等と連携して防災施策を推進することが重要であると述べられています。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000104461.html>

りょうじ かん れんけい ぼうさいくねん
—領事館と連携した防災訓練—

がいくせきし みん ぼうさい し さく すいしん たいし かん りょうじ かん ちゅうにちがいこくこうかん れんけい
外国籍市民へ向けた防災施策の推進のためには、大使館・領事館など駐日外国公館との連携
が大切です。2011(平成23)年12月に、近畿地域国際化協会連絡協議会と在関西の各国領事
館とが合同で防災ワークショップを行い、領事館の方々に京都市国際交流協会をはじめとす
る各地域国際化協会の防災に関する取組を知っていただくとともに、意見交換などを行いました。

たげんご きょうと あんぜんはっしん じぎょう
—多言語による京都安全発信事業(ホームページ)について—

ひがしに ほんだいにしんさい ふくしまだいいちげんぼつ じ こ ふ あん そうだい かんこう りゅうがく
東日本大震災と福島第一原発の事故による不安の増大により、観光・ビジネス・留学など
の目的で日本を訪れる外国人が大幅に減少しています。京都市では、世界中の人々に多言語
のホームページにて、京都が震災の影響を受けておらず、安全なまちであることを発信して
います。

<http://www.city.kyoto.jp/somu/kokusai/fukko/eq/>

じ む きょく し
事務局からのお知らせ

ほん こん わ かい かん ごいけん かきま じょ
本ニュースレターや懇話会に関する御意見などがございましたら、下記までお寄せください。

こん わ かい かいぎ ぼうちやう
(懇話会の会議はどなたでも傍聴することができます。)

また、懇話会ニュースレターのバックナンバーや英語版を御希望の方は、下記までお問い合わせください。

きょうと し た ぶん か し さくこん わ かい じ む きょく
京都市多文化施策懇話会事務局

きょうと し なかぎやうく たらまちどおり おいけあが かみほんのう じまえちやう ばんち きょうと し そうごう きかくきょくこさいか すいしんしつ
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地 京都市総合企画局国際化推進室

TEL: 075-222-3072 FAX: 075-222-3055 Eメール: kokusai@city.kyoto.jp

ホームページ: <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000085281.html>

ニュースレターのバックナンバー・英語版: <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000087864.html>